

織田作之助 小説家。戦前に「夫婦善哉」でデビュー、<敗戦>直後の肉体文学で一躍流行作家になったが、早世した。

おださくのすけ

大正政変・・1913 = 大阪市天王寺区上汐町で、仕出屋織田鶴吉の長男に生まれる。母はたかゑ。姉2人、妹1人。

大暴落・・・1920 = 7歳：大阪市立東平野第一尋常高等小学校に入学。

原敬首相暗殺 1921 = 8歳：

水平社結成・1922 = 9歳：

円本時代始・1926 = 13歳：卒業し、大阪府立高津中学校に入学。

共産党事件・1928 = 15歳：回覧雑誌を主宰。

海軍軍縮条約 1930 = 17歳：同級の吉井栄治とともに、反抗的で遅刻常習、操行等最低ながら、学科成績は優秀。母が死去。

満州事変・・1931 = 18歳：卒業し、第三高等学校文科甲類に入学。自由な校風になじんで、本領を発揮するようになり、

五一五事件・1932 = 19歳：父も死去。同級の詩誌{椎の木}同人の白崎礼三と親交、文学的感化を受けて、無頼の生活となる一方、文芸部の{嶽水会雑誌}に劇評を発表し始める。

国際連盟脱退 1933 = 20歳：休学で1年遅れた青山光二と同級になり、両者で{嶽水会雑誌}を主宰、激論交わすうち、劇作家を志し、

帝人疑獄事件 1934 = 21歳：嗜血し、休学して転地療養。復学するも宮田一枝と同棲、放浪生活。

二二六事件・1936 = 23歳：出席不足で、ついに退学。2度目の嗜血。青山らと同人雑誌{海風}を創刊し、戯曲「朝」を発表。

日中戦争始・1937 = 24歳：

健保+総動員 1938 = 25歳：*「雨」を発表し、同郷の先輩作家武田麟太郎に注目される。

第二次大戦始 1939 = 26歳：大阪に帰り、転変経て日本工業新聞社に就職すると、敏腕記者振りを発揮。一枝と正式に結婚し落着く。

大政翼賛会・1940 = 27歳：*「俗臭」が芥川賞候補、「夫婦善哉」が改造社の第1回文芸推薦作品となり、辞職して執筆に専念、

日米開戦・・1941 = 28歳：スタンダールの「赤と黒」に影響され、「二十歳」「青春の逆説」の長編2部作を書いた(後者は発禁)。

以後、新進作家として続々作品を発表。

戦争中のものとしてはほかに「西鶴新論」などがあるが、

年金+総武装 1944 = 31歳：妻が死去し、衝撃を受けるが、「わが町」が上演されると、出演女優輪島昭子と同棲するようになる。

敗戦・・・1945 = 32歳：*戦後いちはやく、混乱した世相を背景に、「六白金星」「アド・バルーン」「世相」「競馬」「二流文学

論」などを発表して、一躍流行作家になったが、

新憲法公布・1946 = 33歳：*私小説的文学を否定して「可能性の文学」を唱えて論争となり、長編「土曜夫人」の連載を始めて、その具現

をはかるも、病状悪化して、中断し、

新憲法施行・1947 = 34歳：_没した。